沼津高専同窓会だより

第12号
ALUMNI BULLETIN OF NUMAZU COLLEGE OF TECHNOLOGY

平成2年3月発行
沼津工業高等専門学校同窓会　発行責任者／木戸　実
〒410 沼津市大岡3600（沼津工業高等専門学校内）
TEL0559-21-2700 郵便振替（東京）2-102151

会長あいさつ

木戸　実（M6）

会員の皆様からのいつも変わらぬご協力、ご支援いただき、3,300名を越える本同窓会も順調に発展しつつあります。今後とも、よろしくお願い致します。

さて、88～89年度の活動の中での中心は、88年度版同窓会名簿の発行でした。同窓会の根元ともいえる名簿でもあり“より正確に（住所不明の空欄を少く）、より多くの同窓会員へ”を目標に、多くの方々の協力を得て発行できました。今回の販売に際しましては、従来の予約郵送後の代金振替方式ではなく、郵送時においての代金引替方式としました。この結果、会員への配布率は、先回の83年度版では16％であったのに対し、今回は60％を越えるものとなり、飛躍的に名簿を持つ会員が増えました。ただし、この方法については、説明不足も加えて、何人かの方からは、批判的ご意見もいただきました。次回の発行は5年後の93年度となりますが、販売方法、価格については、究極、無料全員配布という方法まで含めて、充分検討していこうと考えています。

その他の活動としては、学校、在校生への支援として、奨学制度の実施（88～89年は3名の適用）や、受験生を対象にした学校のＰＲである“一日体験入学”での卒業生コーナーの設置などが新たに加わりました。

組織の拡大、発展の一方では、理事会ひとつでも全員が集まると150名を越える人数となり（実際は1割程度出席）、いつでも気軽に連絡をとり合える規模を越えてきました。組織が大きくなった分、活動力としては低下のきざしがあると言えます。この辺で、いかに少ない労力にして、有効な同窓会活動を行っていくか転機となすべきでしょう。

多忙な毎日が続く中、会員各位の益々のご活躍とゆとりある生活の中で、少しでも同窓会が役に立つ事を願いながら、あいさつといたします。

総会報告

事務長　鷲巣　守一

平成元年11月23日㈭ 沼津ブケ東海において、平成元年度同窓会総会が行なわれました。

当日は総会に先だち、第5代沼津高専学校長（現校長）の工藤圭章先生による文化講演会（演題：日本建築の流れ）が行なわれ、一般参加の人々を含め私たち同窓生に貴重なお話をいただきました。

午後3時すぎに四條副会長（E16）の司会による開会の辞で始まり、引き続き木戸会長（M6）のあいさつの後、議長漆畑氏（E1）副議長後藤氏（E8）書記小川氏（E5）が選出され議事に入りました。

87年度、88年度事業報告ならびに会計報告の後、質疑応答をへて決算報告は承認されました。

続いて、89年度活動方針、予算案が提出され承認されました。その後次期三役の承認に入り、会長に木ノ内氏（M1）副会長に仁科氏（M2）事務長に坂井氏（M6）がそれぞれ選任されました。新三役の挨拶の後、議事はすべて終了し、議長団は解任されました。

引き続き懇親会が開かれ、来賓・教職員の方にスピーチなどをいただき、楽しい歓談のひとときを過すことができました。最後に理事をはじめ顧問教官、職員の皆様御協力ありがとうございました。

昭和62年度運営会計収支決算書

拠出収入（昭和62年４月１日～昭和63年３月31日）

科目	決算額	予算額	比較増減
終身会費	2,370,000	2,370,000	0
受取利息	752,907	700,000	52,907
雑収入	56,560	100,000	△ 43,440
収入合計	3,179,467	3,170,000	9,467

運営支出（昭和62年４月１日～昭和63年３月31日）

科目	決算額	予算額	比較増減
会議費	273,164	300,000	26,836
通信費	654,280	600,000	△ 54,280
事務用品費	3,550	10,000	6,450
慶弔費	103,000	150,000	47,000
同窓会だより	135,000	200,000	65,000
印刷費	185,480	200,000	14,520
郵便振替料金	0	20,000	20,000
支部交付金	60,000	150,000	90,000
旅費交通費	3,000	100,000	97,000
名簿管理費	65,000	50,000	△ 15,000
総会懇親会特別会計	100,000	100,000	0
20周年事業費	876,888	800,000	△ 76,888
雑費	3,980	50,000	46,020
予備費	0	440,000	440,000
本年度剰余金	716,125	0	△716,125
支出合計	3,179,467	3,170,000	△ 9,467

昭和63年度運営会計収支決算書

拠出収入（昭和63年４月１日～平成１年３月31日）

科目	決算額	予算額	比較増減
終身会費	2,580,000	2,580,000	0
受取利息	708,349	700,000	8,349
名簿特別会計剰余金	1,155,727	0	1,155,727
雑収入	3,360	100,000	△ 96,640
収入合計	4,447,436	3,380,000	1,067,436

運営支出（昭和63年４月１日～平成１年３月31日）

科目	決算額	予算額	比較増減
会議費	224,058	300,000	75,942
通信費	284,450	600,000	315,550
事務用品費	32,630	50,000	17,370
慶弔費	128,000	150,000	22,000
印刷費	66,384	200,000	133,616
郵便振替料金	50	20,000	19,950
支部交付金	60,000	150,000	90,000
旅費交通費	36,500	100,000	63,500
名簿管理費	50,000	50,000	0
文化講演会	100,000	0	△100,000
奨学金	120,000	120,000	0
雑費	16,640	50,000	33,360
予備費	0	1,590,000	1,590,000
本年度剰余金	3,328,724	0	△3,328,724
支出合計	4,447,436	3,380,000	△1,067,436

昭和62年度貸借対照表

（昭和63年３月31日現在）

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
現金	73,797	借入金	0
郵便振替	0	未払金	578,320
郵便貯金	5,438,844	前受金	2,580,000
銀行普通預金	2,602,080	仮受金	0
銀行定期預金	8,123,305		
未収金	2,295,000	未収金引当金	2,295,000
仮払金	50,000		
什器備品	31,500	減価償却引当金	28,350
		剰余金	13,132,856
		（本年度剰余金）	（716,125）
合計	18,614,526	合計	18,614,526

昭和63年度貸借対照表

（平成１年３月31日現在）

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
現金	98,063	借入金	0
郵便振替	11,830	未払金	288,000
郵便貯金	5,882,658	前受金	2,370,000
銀行普通預金	2,395,800	仮受金	0
銀行定期預金	10,704,179		
未収金	2,295,000	未収金引当金	2,295,000
仮払金	50,000	奨学金引当金	26,100
什器備品	31,500	減価償却引当金	28,350
		剰余金	16,461,580
		（本年度剰余金）	（3,328,724）
合計	21,469,030	合計	21,460,030

平成１年度運営会計収支予算案

拠出収入

（平成１年４月１日～平成２年３月31日）

科目	予算額
終身会費	2,370,000
受取利息	700,000
雑収入	10,000
収入合計	3,080,000

運営支出

（平成１年４月１日～平成２年３月31日）

科目	金額
会議費	300,000
通信費	600,000
事務用品費	50,000
慶弔費	150,000
同窓会だより	200,000
印刷費	200,000
郵便振替料金	10,000
支部交付金	150,000
旅費交通費	100,000
名簿管理費	50,000
奨学金	120,000
総会懇親会特別会計	200,000
雑費	50,000
予備費	900,000
支出合計	3,080,000

88版名簿特別会計

売上総額 @3000×1,938 冊	5,814,000
経費合計	4,658,273
調査費	840,000
発送費	1,220,893
郵便振替料金	95,170
作成費	2,502,210
剰余金	1,155,727

監査報告　監事／柘植 宗康（M3）久保田悦郎（M15）

厳正なる監査の結果、会計帳簿は正確かつ明確に記帳されており、収入・支出とも適正で、昭和62年度、昭和63年度収支決算書及び貸借対照表の記載に相違ないことを認めます。　平成１年11月17日

新三役あいさつ

次期会長を引受けるにあたって

木ノ内　倫　弘

会歴23年、会員数3,325名という立派な組織に迄成長した沼津高専同窓会の会長という大役を仰せつけられ、少し緊張気味でありますが就任にあたりひとこと御挨拶を申し上げます。狭い国土と少ない天然資源しかない日本には高度の工業化は不可欠であります。その工業化を担う中堅技術者となるべく沼津高専同窓会員各位には日夜努力されておることと思います。既に初期の卒業生においては各企業の部課長クラスに迄昇進され、自己の啓発は勿論、部下の育成にもいろいろと努力されていると聞いております。又若手の皆様方もそれぞれその職場になくてはならない存在という方が大多数と思われます。誠に喜ばしい限りであります。このように素晴らしい会員相互の連絡親睦を図り、より一層の発展をする為の手助けとなるのが同窓会の努めであるかと思われます。幸いなことにわが沼津高専同窓会は創立以来歴代の役員諸氏の努力と会員の協力により着実に歩んでまいりました。更に強力に活動を進めるべく一生懸命がんばる所存でございます。いろいろと新しい提案もするかと思いますが、御協力のほどよろしくお願い致します。　以上

副会長を引き受けるにあたって

仁　科　和　晴

再び三役をやるとは、思いもかけませんでしたが、これも縁と思い引き受けました。

企業においても40才台は働きざかりであり人手不足とあいまって、多忙と思いますが、私も自由業（本業：畳、副業：設計）となり、地域をベースに生きることになりました。こちらも地区での役割が多く、このような中でいかに仕事をするか考えています。“名人は制約の中でその技を発揮する”ということばにならい、がんばりどころと思います。19世紀は、1789年フランス革命、20世紀は1914年第１次大戦が節目であり、ベルリンの壁が除かれた1990年は、21世紀への節目という見方があるそうです。

沼津高専も21世紀に向けて、りっぱな歴史を築き社会に貢献できるようにありたいものです。企業も学校もそうですが、100年後は消滅するものもあれば、社会に一層その存在を大きくするものもあります。漢詩の“起承転結”からすれば高専も、高度成長のときに起り、今“転”を向えたと思います。高度成長は、我々に大きな前進を与えてくれましたが、いろいろ修正した方がよいことも又多く発生しました。

昨年は、工藤校長の建築の講演を拝聴しましたが、先端技術と、伝統的な技術とのかかわりや、自然との調和等、見直す時代かも知れません。言うまでもなく、学校の価値と教育の成果は、学生が品行方正であるとか、レベルが高い低いではなく、彼らが世に出て、何をなすかにつきます。勿論、派手な活躍だけが業績ではないので、各ポジションでじっくりと力を発揮したいものです。

事務長就任にあたって

坂　井　徳　尚

同窓生の皆様お元気ですか？　私は昭和47年卒業の６期生なのですが、その当時生まれた子供達が現在、在校生として勉学に励んでおります。ときの過ぎる早さを感じる今日此頃です。

いつのまにか、同窓生は3,000名を越え、理事の方々も150名近い大所帯となってまいりました。

同窓会の活動も、年々少しづつ変化してきておるわけですが、昭和が平成と改まったこの節目に、その活動のひとつひとつを再び見直してゆく機会が来たのではないかと思っております。

理事の方々をはじめとして、同窓生の皆様方の御協力をお願いして、少しでも同窓生のお役に立て、又母校沼津高専の発展に寄与しうる同窓会となるよう、微力ながら努力してゆきたいと思います。どうぞ、同窓会活動に御協力下さいますようお願い申し上げます。

新　三　役　紹　介

会　長	**木ノ内　倫　弘** 東　芝　機　械㈱	（Ｍ１）
副会長	**仁　科　和　晴** 仁　科　畳　店	（Ｍ２）
事務長	**坂　井　徳　尚** ㈲　富　士　一	（Ｍ６）
補　佐	**平　松　雅　彦**	（Ｍ12）
監　事	**諏訪部　　豊**	（Ｅ９）
	山　本　克　之	（Ｍ17）

同窓会の皆さんへ

学校長　工藤　圭章
（同窓会名誉会長）

平成２年度になって、沼津工業高専もようやく４学科が５年生まで揃いました。昭和61年度にできた電子制御工学科の学年進行が最後の年を迎えたからです。ところで、今年の入学志望者は去年、一昨年の1.9倍からようやく2.3倍と増えました。高専の存在意識が認められたからでしょう。しかし、一方では、高専が大学へのバイパスであるという認識が高まり、大学編入学を志して高専入学を望んだ受験生も少なくありません。これが倍率を高めたこともいなめません。さて、皆さんの後輩にこれからなる今年の新入生は207名です。よろしくお願いします。

昨年の春、沼津工業高専に着任してからもう１年たちました。先輩の諸兄姉の後につづく学生を立派に育てようと、私たち教職員はよくつとめてきたはずだと、この１年間をふりかえって自戒しています。皆さんもお暇がございましたら後輩を激励のために母校を訪れてください。たのもしい先輩が社会で活躍しているのを実感するとき、在校生はさらに心強く思うことができるのです。平成元年度の高専祭のテーマは、∞への飛翔でした。先輩の皆さんからのはげましは∞に＋αを積み上げることになるでしょう。同窓会と学校の連帯は緊密であればあるほど、相互の発展がはかられることでしょう。沼津高専の将来への展望が、また拡がるはずですので、よろしくお心掛け頂ければ幸甚です。

海外赴任奮闘記

望月　哲

子供の時、私の実家に電気冷蔵庫、電話、ガス、TV が来たのは近所に十分行き渡った頃でした。『我が家にも TV が来た、これは世間様には相当に出回っているに違いない。』などと判断したものです。その癖がついているせいか、私に海外赴任の命が下った時も『国際化、国際化と騒がれているがこれは本物に違いない、なにしろこの俺にまで出番が回って来るのだから』と、ひとり納得していました。

しかし、同窓会名簿を見ると海外赴任者は意外に少なく、これはもうきっと皆、勤務を終えて帰って来たのだろう、やっぱり私の出番は全体に行き渡ってからなのだろうかとも考えています。

そんなわけで、皆様に興味を抱いてもらえる話が書けるかどうか自信がありませんが経験者の方はそんな所もあるのかと、また未経験者の方は、他山の石として読んで下さい。

私の現在おります所は、オーストラリアのメルボルンです。私と同年代以上の方はメルボルンといえば、その昔1956年のオリンピックの開かれた所ということで、ご存じのはずです。（当時、弱冠９歳の私は遥か南半球からやって来る電波状態の悪いオリンピックの実況放送をラジオに文字通り、しがみついて聞いていました）そのメルボルンへ来ることになるとは、陳腐な言い方かもしれませんが夢にも思いませんでした。

半年間ほどの今でも思いだすと、いやになるくらいの面倒な準備（車の免許取得から始まり、留守宅の処置、犬の連れ出し、引っ越し荷物の整理、金融機関への手続き等）を経て、まずは単身で出発。通常の海外出張なら往復の航空券を持っていくのに、片道の航空券しか持てないフライトには、何とも言えないものがあります。メルボルンに着くと早速の家捜し、と言っても私の場合たまたま先に赴任していた人が、他に引っ越すとのことで前の家を確保しておいてもらい、到着後一週間でホテルから移り住むことが出来たのは幸いでした。そうでないと、右も左も、西も東も、言葉もままならない異国での家捜しというのは並大抵ものではありません。

学齢期の子供がいれば、日本人学校へのバスルートも考慮して家を捜さなければならないし、さらに貸家そのものが少ないときているので間取り、環境も満足する家を見つけるのは至難の技。
それでも皆さん何とか見つけ、訳の分からない英文の契約書を取り交わして、住み着いていくのです。

私の場合、契約上犬を飼ってはいけないことになっているけど日本に置いてこれず、これもまた筆舌に尽くしがたい面倒な手続き（オーストラリアは、陸の孤島のため動植物に対する警戒が世界一厳しい）を経て、やっと連れて来た犬がいるため不動産屋の六カ月毎のチェックの時には、犬小屋を物置に隠しチェックに来る少し前に散歩に連れ出し、隠し続けているという涙ぐましい努力もしています。

単身生活は二カ月間、その間に家具、電気製品を取りそろえ家族の受入れ態勢を整えます。

この調度品を取りそろえるのが又、一苦労でした。購入後、店に配達の時刻など指定できず午前か午後かという大雑把なもの。午後というので会社を抜け出し昼頃から待ち続けていて、やっと来たのが七時頃。午後には違いないが……。こんなことで怒ったりしていては、この国ではつとまりません。何せ、配達されてきたものは必ずといっていいほど何処か問題があるのですから。

食堂のテーブルの脚が折れていたり、部品がなかったり。後で直しに来る、持って来ると言っても口先だけでなしのつぶて。文明国と思っていたこの国の印象は初めから大きく狂わされてしまいました。

二カ月間の家族との連絡は、手紙と電話。国際電話代もバカにならないため考えたのが毎日時刻を決めて日本に電話し、呼び出し音を三回鳴らしたらそのまま切る。これが無事でいる証しとしてお互いに利用しました。国際電話回線を使ってタダで情報を伝えるという KDD 泣かせの、この方法は大いに有効でした。

この辺で仕事の話にも触れなければいけませんが、移民の国だけに社内には約五十の国の人々が働いています。（ほと

んどの人がオーストラリアの国籍をとっていますから正確には民族の数になりますが）私の部を見てもオーストラリア、スリランカ、ポーランド、ユーゴスラビア、スウェーデン、ソ連、アイルランド、ポルトガル、マレーシア、日本と十二人で十カ国になります。

人生観、価値観の異なる人々と意思を疎通させ、一つの目的に向かって協力し合っていくことは日本で想像していた以上の難しさがあります。残業、休出は、日本に比べてはるかに少なく、いざという時の頑張りがきかない点は日本で日本人を相手に仕事をしている人たちは、天国で仕事をしていると思っていいでしょう。人間関係に起因するトラブルもしばしば発生します。立場上これを裁かなければなりません。日本語でさえ難しい問題を英語で当事者に納得させるのは困難の極みです。しかし、拙い英語でも相手が理解し説得に成功したときは、苦労がふっ飛びます。

また、この国の工業技術レベルに起因した様々な問題も起こります。これは一企業の中で一人でシャカリキにやっても一朝一夕には解決できないことです。日本にいる時に、オーストラリアは日本に匹敵するほどの先進国と思っていたのは大いなる誤解でした。

この国は工業の面では永久に日本を追い越すことは出来ないと思います。これは思い上がりではなく、やはり日本人の勤勉さ、誠実さのためだと確信しています。働きすぎは決して美徳ではないと言われるご時世ですが相手、つまりお客様を思って働く分には素晴らしいことと、この国にいては思わざるを得ません。

この国に貢献するべくやって来た私です。仕事には全力を尽くしています。家族も幸い健康でこの国での生活を楽しんでいるようです。大自然に恵まれ、広大な土地を有し、食べ物も豊富で安く、おおらかで陽気なオージー達との生活は日本では経験出来ない豊かな気持ちも味あわせてくれます。まだまだ書くことは山ほどあるのですが、締切も近づいていますのでこの辺で筆を置きますが、今回はどうも日豪親善を意識し、本社を意識し真実を吐露していないようです。次回チャンスを与えられたらもっと生々しいことも書けるのではないかと思います。

Ｍ３高橋幸吉君に捧げる

良き後輩　舎弟分　通称コウキチ君を偲んで、ライバルと言うよりは、強すぎた陸上部の長距離ランナー、全国制覇のヒーロー他界する。（慌ただしい葬儀におくればせながらもの弔辞に代えて）

若干39才のコウキチの死の通知は11月７日土曜早朝にＥ３高橋良治君からの電話で知らされた。８月末には元気で家族みんなで真鶴旅行に行き、帰りに母校沼津に立ち寄り、９月人間ドック検査でそのまま志太病院に入院。急性白血病で、２ヶ月弱という短期間の面会謝絶状態で帰らぬ人となった。７日の通夜、８日の葬儀には高専関係者だけでも27名という多くにのぼったが急な事の為、親しかった同窓生諸兄には、連絡不足で誌面をもって知らせざるを得ない失礼をお許し願いたい。

思い起こせば、コウキチが１年生当時、静岡から通学していた為、たまにしか練習に出席しないが２年生の俺より速く３年生の現ＯＢ会会長の安藤先輩をも脅かす存在に２期生の長距離組は随分、肩身の狭い思いをさせられた。２年生当時、夏休みにはコウキチの母校である籠上中で練習をし浅間神社の石段上りや山径上りを一緒に励んだ。３年生以後は、各地の駅伝に出場し地元沼津で高校の部優勝２回、御殿場の矢崎の走ろう会、白糸、草薙～日本平、静岡お掘り継走、はては真鶴まで遠征した。夏休みの通学練習後はよく『マケヌ屋』（現、田辺商店）に寄ってコーラのホームサイズを一気飲みしたものだ。ちなみにこの間から卒業にかけてコウキチは校内マラソン優勝３回、準優勝１回の成績を残し20周年史の最高峰に名をつらねている。陸上部ＯＢ会では彼のことを『コウキチ』と読んで両高橋君を区別していたので彼の本名がユキヨシ君であることを知らない運動部諸兄も多いが、これはかの東京オリンピックマラソンの銅メダリスト円谷幸吉が同名異読であるからだ。コウキチが４年生の時には大きな２つの思い出を残してくれた。第１は４年生全員による陸上部ボイコットという俺に対する痛烈な批判、これは鈴木悦マネージャーが内々にまとめ卒業後知らされた。第２はコウキチたちが俺たち最上級生にくれた最高のプレゼント、永遠に輝く金字塔。母校創設23周年の今もどの課外活動部も破っていない記録、それは後輩に追い越され腰椎い分離症に悩み、彼等より先にはオートバイでしか走れなかった俺には主将という大義名分のため、後輩たちの後ろから棒をふって追い回しただけの事で得るには、あまりにも立派すぎる名誉「第２回全国高専大会の総合優勝」であった。（前後の大会は３位に入賞）今は図書館のショーケースに収まっているレプリカの盾に全国優勝の２文字があるのさえ知らない同窓生も多いが、俺の部屋の写真は、本物の盾をもって井形校長の銅像の前で威張っている。しかし残念なのは高校駅伝旧西京極陸上競技場での俺とコウキチの写真が極端に少ないことだ。なぜならば彼コウキチは5000Ｍ決勝で準優勝したのだが異常に高温な気温とトラック路面からの照り返しで走行中に熱射病にかかりバックストレッチでふらつきインターフェアコースで失格寸前でゴールにたどりつきゴールイン後にコースを逆戻りするほどの状態に陥ったからだ。介抱して残りの種目1500Ｍを走らせようとする俺にコウキチがいった言葉は「カネダ、ツバをカケロ、ツバをカケロ、アツイ」だった。やむなく救護班の指示で強心剤を注射され1500Ｍを棄権して救急車でホテルに戻ってししまった。ノドの渇きを訴えるコウキチに冷蔵庫の氷を吸わせ介抱する俺に、１時間くらい後正気に戻り「何故オレはここにいる。今何時だ。腹減った。夕食を食べていない。」と昼食時に言った奴だった。

幸運は夕刻に訪れた。午後走りはばとび、400Ｍ継走で優勝した沼津は僅少差で東海北陸大会で常に負けていた鈴鹿を破り総合優勝しＭ２西尾、青木が表彰台にのったとの知らせ

がもたらされた。しかも鈴鹿と同得点で四継で鈴鹿が２位以上だと負ける状況で勝又先生はトップをいく沼津より２位、３位を争う久留米を応援した。結果は同得点の場合、上位入賞種目の多いほうという規約により優勝種目各２、準優勝種目のない鈴鹿がコウキチの5000Ｍ準優勝にしてやられたのだ。（むろんコウキチが1500Ｍを走っていたら楽に沼津の勝ちだったと今でも思っているが）夕食時鈴鹿の投てき種目の宿敵とホテルで会い抱き上げられたとき「おまえらこんな身の軽さでよう走るわい」と言われ俺は「コウキチはもっと軽いが熱射病をおして走り貫く奴だ」と口からでそうになったが言えなかった。

ろくでもない俺ら５年生がぬけてコウキチらの５年生時の駒沢は総合連続制覇のつもりだったがメンバーが変わった1600Ｍ継走でバトンを落とし３位に甘んじた。卒業時にコウキチが残した高専新聞には「某月某日、１年生のカレは皆の後について走った。某月某日、２年生のカレは後から３番目を走った。某月某日、３年生のカレは真ん中を走っていた。某月某日、４年生のカレは先頭を走っていた。某月某日、５年生のカレは皆が走ってくるのを見ていた。しかしパンツになって走り出した。カレは走ることに楽しみを見出だしたのだ。」２年生で先輩より先に走っていても決して鼻にかけないし自分より遅い奴への思いやりを知る奴だった。しかし卒業式には井形賞をもらいながら沖縄に足どめされて出席していない。日産時代にはエンジン鋳造から海外技術サービスで頑張り友人知人には拡販の紹介制度に名前を貸してくれと頼みスキーを楽しみ、テニスをやり、山登りすると海抜2500Ｍで高山病になる奴でスポーツテストマスターの資格をとり独身寮時代は友人知人が行くと横浜の中華街を食べ歩き、真鶴の良治の所へ行き魚介類を食べ出すと３人前食う奴だった。また父兄思いで実家高橋テイラーでは俺も背広を作らされた。陸上部ＯＢ会へ婚約者を連れてくる例もコウキチが作った。嫁さんの田鶴子君の実家藤枝の戸塚酒店の経営を始めてからも４人の男の子も誕生し元気に配達に店頭売りに精を出し２４時間営業のコンビニエンスストアに事業拡大しようとする矢先の病であった。生前のコウキチに会ったのは８月の町内夏祭りで子供みこしの為、ガードマン制服で車の迂回をお願いしていた。面会謝絶の病床からも子供達に手紙を書き続ける奴だった。

人生のゴールテープはまだまだ先だったはずなのに又もや人生のバックストレッチにさえ達せずにインターフェアをやらかしたのか。コウキチの作ったＯＢ会のバトンパスがうまくつながらずに葬儀に出席しなくてはならないなんて……高専生よ、身体をいたわろう。M1のサッカー部主将の杉山先輩、Ｅ２のバスケ主将全国準優勝の長谷川正道、そして陸上のコウキチ（この原稿を書いている最中にＭ２久保田豊君も亡くなった。）真に実力のある奴等が早死にする30才や40才で人生をまっとうし燃焼し尽くせたとは思えない。コウキチらの警鐘を生かし我が身を大切にしよう。コウキチの名は陸上部ＯＢ会初め同窓生諸兄の胸中に燐然と生き残っているのだから。

コウキチを忘れないためにも沼津高専同窓会諸兄よ。第２第３の全国勢覇、それに匹敵する事業、人生を目指し共にあゆまん。

俺はコウキチをエリートだとは思っていない。人一倍速く走る為に人一倍努力した奴だと思っている。（現に、校内マラソン連続優勝記録はＭ６石橋によって破られている。）

葬儀が済んでコウキチの骨の前で男泣きし校歌をうたった人達

勝又瑛逸教官（沼津）Ｍ１安藤高光先輩夫妻（横浜）Ｍ２青木喬（島田）西尾正博（焼津）望月照夫（静岡）大隅勉（東京）Ｍ３佐野邦行（栃木）鷲巣博章（柔道部、静岡）長島（焼津、野球部）沖田富保（焼津、野球部）北川五一（ラグビー部、焼津）市川雅（裾野）岡本（加藤）惇（サッカー部、三島）塩川修治（富士宮）Ｅ３高橋良治夫妻（真鶴）沢崎周二（名古屋）鈴木悦郎（名古屋）桑原重治（川崎）杉井勉（名古屋）Ｍ４松永（堀池）繁（静岡）永田勝久（静岡）Ｍ５藤波祥司（富山）Ｍ６石橋睦夫夫妻（東京）

昭和62年11月14日　Ｍ２　金田友義　記

盛況のサッカー部ＯＢ会

サッカー部ＯＢ会事務局
サッカー部コーチ　**坂井徳尚**（Ｍ６）

沼津高専テニスコートの上の桜がほころびかけた、平成２年３月18日午後１時より、母校グランドにてサッカー部ＯＢ会が開かれました。当日は好天にも恵まれ、ＯＢ会長米山邦彦氏（藤沢在住）をはじめとし、東は千葉より田中勝己（Ｅ19）、梨山真弘（Ｅ20）、埼玉より星崎仁（Ｍ９）、西は鈴鹿より高柳誠（Ｅ20）等々総勢38名のＯＢがかけつけてくれました。

昨年まで全国大会で活躍してくれた若いメンバーや、何年ぶりかでボールを蹴るＯＢまで、現役相手に２試合サッカーを楽しむことができました。また、サッカーはしばらくやっていないので、ケガが恐い為ボールは蹴れないけれど、仲間が来るというので、仲間に会いたくてはるばる母校グランドまでやってきたというＯＢが何人もいました。このことは、ＯＢ会の事務局として、また沼津高専サッカー部コーチとして、高専入学以来23年にわたりサッカー部に関わってきた私としては、これ以上の喜びはありませんでした。

それから、顧問の久米先生、村松先生はじめ現役サッカー部員達には、ＯＢ会の準備ならびにグランドの整備等、先輩達を気持ちよく迎えていただきましたことに感謝致します。そして又、ＯＢの皆様には、現役チームに対し、新しいユニフォームのプレゼントをいただきましたことに感謝致します。ＯＢの暖かい激励に対し、現役一同には、優勝というお返しをさせていただきたいと思っております。

ＯＢの皆様方も、健康には充分留意なさって下さい。そして、次回のＯＢ会には再び１人でも多くの仲間が集えることを祈念いたしております。

どうもありがとうございました。